

平成26年度 学校関係者評価委員会アンケート 集計

I. 教育目標

- ・立派な教育目標であり、高い評価が得られています。
- ・評価平均点での4点以上は気になりませんが、3.4点を評価しているP-D-Cに関しては、教育活動中のシラバスが影響しての評価となっているのではないですか。
- ・今後も、各種意見を教育内容に反映されるよう努力して頂きたい。
- ・自己評価点も3以上で問題ありません。今後、教育内容の改善に期待します。

II. 教育活動

- ・本当に難しい課題ではありますが、各々職員の個性の違いはあるものの、教育基準の平均化を図れば、学期による偏りやシラバスも少しは改善できるのではないかと思います。
- ・次世代自動車の急速な普及が進む中、教科書の内容とは裏腹に、授業としては取り上げられないと思いますが、就職するとすぐに次世代自動車に係る機会があると思いますので、生徒に興味を持って頂くためにも新機構教材の確保も必要かと思われます。
- ・36の項目が2.8点と低いのが気になります。54の項目も気になります。
- ・62・63の項目は、少子化・車離れによる整備要員不足が懸念される中、国交省主体による関係団体との連携を密にし、車に興味を持って頂けるよう人材確保に向け我々も活動いたします。また、当会独自の高等学校訪問も行いますので、急速の課題だと思えます。
- ・学生の状況については、各学科への志望状況や定員充足率の改善をお願いしたい。今後エンジニアの人材確保に向け、学校と企業が連携して取り組みを図る事が必須。
- ・インターンシップ制度については、非常に評価出来る。学生は授業や教科書だけでは分からない実際の現場を体験することができ、企業側もどういった学生がいるのかが分かる。
- ・私が在学中には受験・受講しなかった資格（就職後仕事上で必要な資格）が現在は取得目標資格に入っていたので評価できる。資格試験については、引き続き高い合格率を維持するよう努力して頂きたい。

- ・先日、三者懇で学校に行った時のこと、エレベータから学生の方が降りてこられましたが、こちらにぶつかりそうな勢いで挨拶もありませんでした。たまたまそうだっただけかもしれませんが、授業としてのマナーの時間にだけ出来る・・・というのでは社会に出たら困るのでは？ と思いました。普段から、たとえ知らない人に対しても、普通に挨拶ができる。というような気遣いの持てる躰教育をお願い致します。(学校側に全面的にお願いできることではなく、家庭での指導が必要なことも分かっております)

Ⅲ. 福利厚生

- ・充実しているのが伺えます。欲を言えば、3点台を4点台にして頂くよう取り組んでください。
- ・特に問題ありません。学食や女子寮については大変良い。
- ・男子寮が現在閉鎖と聞いている。私が在学中は学生寮に入っていた。そこで仲良くなった人(他学科も含む)とは現在も交流をしており仕事上の問題点などをそうだんしている。コミュニケーション能力の向上や、人間関係の形成などにも繋がると思うので、運営費・ニーズ等の問題もあると思うが復活することを望む。

Ⅳ. 管理・運営・財政

- ・特にありませんが、添付資料として保護者アンケートがあれば幸いである。
- ・広報活動や高校訪問は今後も継続して頂き、自動車が好きな人材を確保して頂きたい。
- ・Ⅱの4学生の状況にも関連してくるが、広報・募集活動について企業側も人材確保は工業系の学校にお願いすることが多く、学生数の減少は非常に気になる。今後も各種PR活動に積極的に取り組んで頂きたい。また、工業系企業・団体と一緒にPR活動も検討してみてはどうか。

学校関係者評価委員会開催後の基本方針

自己点検・評価の結果（平均点）の高い、低いに拘らず教育活動および学校運営については、常に高い次元を意識し維持・向上するよう努めなければならない。

特に、今回の評価委員からのご意見を素直に受け止め、外部からの意見や評価と学校側の評価を比較することにより気づきや発見・改善すべきものが具体化してきた。

更に検討および改善を行い、今後は第三者からの意見も取り入れ、更に多方面から評価して頂くよう取り組んでいく必要がある。

改善の必要があるが後まわしにしている問題、項目によっては向上させる努力はするが結果が出ない等、様々な課題はあるが、学校関係者評価委員会の取組により外部から見て頂いた諸問題や課題を表面化することにより、改善し、維持向上させ理想とするべき学校運営を目指す。

具体的方策

I. 教育目標について

- ①教育目標および計画のPDCサイクルについては評価点4以上を目標として今後、検討する。
※特に、計画・実施においては、各学科・各クラス毎の不備および不具合部分を明確化し、改善する。
- ②評価においては、各委員で若干の差はあるが、今後、高い評価を目標に活動する。

II 教育活動について

- ①学生の悩みや相談を受ける体制づくりについての指摘があった事については、反省すべき点である。今後は、心と時間に余裕が持てる体制を整え、学生対応を行う。
- ②公開授業および授業研究に関する体制については、環境を整える等の体制づくりから手掛け、改善する。
- ③各学科の志望状況や定員充足率については、意見を頂いた通り、急速の課題であり、学校で出来る新たな取組は何か？企業や関係団体に協力頂けるものは無いか？等を具体化し、課題として掲げるだけでなく早急にアクションを起こす必要がある。
- ④躰教育についての意見は、謙虚に受け止めたい。社会人教育・職業人教育たるものは、技術・技能の習得は基本であり、人間性の質も向上させなければならない。資格取得や技術・技能を身につけるための訓練や授業に偏っていることは否めない。
今後は、更に教員の指導力を向上させ、学生の潜在能力を引き出し、伸ばす、そして褒める。など具体化し授業以外の生活指導や躰教育も力を入れ、両立させる。

Ⅲ福利厚生について

- ①各項目においての評価点を向上させる努力を継続する。

Ⅳ管理・運営・財政について

- ①指摘のとおり、より具体的な評価が頂けるよう、今後は保護者アンケートや学生の満足度アンケートを資料として添付する。各アンケートは毎年実施している事であるが、評価して頂く必須の会議資料であることが欠けていた。反省したい。
- ②各PR活動は、結果が出せるよう更に積極的に行う努力をする。特に電気科については、教育編成委員会と同様に、企業等との連携も図り、意見やアイデアを頂き、若者が興味を持つようなPR方法の検討や志望者増についての改善策を考える。よって、人材不足による諸問題についても専門学校として貢献したい。